

Funehiki High School News vol.126

～がんばる船高生～ **ATTENTION!**

第5回 デュアルコースの小関健太さん

「田村市版デュアルシステム」を知っていますか？ 田村市、地域企業、本校が連携し、生徒を育てる教育制度です。授業の一環として、本校生徒が週に1回、一年間を通して市内の企業や施設で実習するもので、本校の教育課程に設定されています。「デュアル」とは、ドイツ語で「並行して行う」という意味。デュアルコースで学んでいる生徒の一人、小関健太さん(3年 都路中出身)に話を聞きました。



—なぜデュアルコースを選んだのですか。

他の生徒よりも早く実社会で職業体験ができるので、たくさんのことを学べると思ったからです。昨年度は(株)白石モータース様と(株)ダイユーエイト船引店様で、今年度は田村森林組合様で実習をさせていただきました。

—どのような実習をしましたか。

白石モータース様では、主にお客様の車の洗車、車内清掃、タイヤ交換を行いました。洗車の際は車体に水垢が残らないよう、丁寧に素早く作業しました。どの作業も真摯に取り組み、自分が納得のいく仕事を心がけること、お客様も自分たちも満足できるような仕事をするのを教わりました。

ダイユーエイト様では、商品の補充陳列、接客を行いました。初めは商品の場所が分からなくて戸惑うことがありましたが、意識して早く場所を覚え、お客様を案内できるようになりました。お客様

には大きな声で挨拶し、気持ちよく買い物をしてもらえるように努めました。

田村森林組合様では、木材の加工や結束を行いました。木材を積んでいく作業があるのですが、間違えた積み方だと木材が曲がってしまい、良い製品になりません。木材の向きや裏表などに注意して作業しました。正確に作業できるよう分からないことを聞き、作業の効率とスピードが上がるにはどうすればいいか考えながら実習に臨みました。

—デュアル実習で学んだことは。

仕事を休まないよう体調管理をしっかりすることや、幅広い年齢層の人とコミュニケーションを取る大切さを学びました。また、お客様や社員の方々に誠実な態度で接すること、真剣に仕事に取り組む姿勢を実習先の皆さんから学ぶことができました。本当にたくさんの方々にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。4月から社会人になりますが、デュアル実習で学んだことを仕事でも生かしていけるよう頑張ります。

今年度のデュアル実習成果発表会を行います。日頃の実習風景の紹介、生徒によるプレゼンテーション・発表などを行います。また、(有)蓮笑庵の渡辺仁子代表取締役による講演会も予定しています。事前の予約は不要ですので、ぜひご来場いただき、生徒たちの成長をご覧ください。入場は無料です。

●日時：2月20日(火) 午後1時30分～3時45分(午後1時受付開始) ●会場：市文化センター

◆選挙を体験



本校は、社会科の授業を通して公職選挙法を学びつつ、政見放送を観て投票に臨む「模擬選挙」を行っています。昨年12月15日に行われた模擬選挙で、選挙管理委員長を務めた白石智大さん(3年 船引中出身)に感想を聞きました。

「昨年の衆議院選挙では実際に投票に行きましたが、自分の一票が政治に関わることを考えさせられました。模擬選挙では投票管理を務め、投票の開始と終了の指示、投票人数の把握、投票箱に票が残っていないかの確認などを行いました。初めての作業でしたが、選挙は厳正な手順を踏んで行われるものと知りました。卒業後も積極的に選挙に参加したいです。」



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp

新天地への思い



Virginia Thorne
ヴァージニア・ソーンさん
(アメリカ合衆国
カリフォルニア州出身)
田村市に来て1年目

去年の4月、日本に降り立った私は、成田空港から田村市へ向かう車に揺られていました。数時間後、田村市に着いた時、その景色を見て、私はとても幸せな気持ちになりました。というのは、その風景が私のふるさとを思い出させてくれたからです。田村と同じように、私のふるさと山々に囲まれているのです。



昨年12月14日 美山小学校

この新天地、田村市。私はここで、英語の先生として学校で働きだしたのでした。

初めは驚きの連続です。例えば、学校で生徒との初対面のこと。私が自己紹介をした後、生徒たちが私に質問しました。「お気に入りの山は?」「好きな野菜は?」——私は驚きました。そのようなことを考えたことがほとんどなかったからです。

また、日本の学校では、授業の始めと終わりにあいさつをします。これはアメリカにはない習慣なので、初めは戸惑いました。今ではもう、あいさつがないと違和感を覚えるでしょうけれど。

今では、私も生徒もお互いに打ち解けています。周りに生徒たちがいると楽しいですし、生徒たちも笑顔で手を振ってくれるとても嬉しいですね。

海を越えて 英語指導助手ペンリレ No. 56 特別編

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていることなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

ルーツを探す旅



Garrett Kaufman
ギャレット・カフマンさん
(アメリカ合衆国
カリフォルニア州出身)
田村市に来て1年目

冬の休暇中に、僕は2つの場所を訪れました。

最初に訪れたのは、タイ。福島が冬の寒い季節なので、温かい南に行こうと思ったのです。強い日差しを楽しみ、浜辺で楽しむことができました。自分の気持ちがいっぱいフレッシュしましたね。

次に、福岡県の久留米市に行きました。

僕はというと、久留米市に行きたいと思っていました。なぜなら、僕の高祖父(祖父の祖父)は、日本からアメリカへ渡った第一世代の移民だからです。彼は久留米からカリフォルニアへ渡り、英語を学びながら農場を開いたそうです。



先祖の写真の下で親族の方々

冬は、久留米市に今も住んでいる遠い親戚の人たちに会うことができました。その中の何人かは僕を家に招き入れ、写真を見せたり、その地域に住む親族の歴史について話したりしてくれました。

ある人は、親切に久留米市内を案内してくれました。僕の高祖父が生まれた家や、通った学校も見る事ができました。自分のファミリー・ヒストリーを実感しました。また久留米に行っても、もつと自分のルーツを知りたいと思いました。

あなたも、自分のルーツを探してみませんか。その地を訪れたら、感動すること受け合いですよ。